

之名矣、

〔加越能山川記〕越中 常願寺川

常願寺川ハ新川郡に在、略○中 此川山内にて大谷二川有、左正妙川と云、此水は立山御前并眞砂ヶ

嶽の流水又地獄谷の水也、略○中 南龜谷より北蘆崎へ藤橋二箇所あり、

〔視聽草 五集六〕藤橋之記

越中 正明川、藤の釣橋は、立山へ行く道に渡せり、長さ凡廿七八間、唯藤蔓にて造り掛けたるなれ

ば、其危き事いふばかりなし、諸州より立山禪定するもの十人に九人は、此橋を過る事を恐れて、

爰より歸る人多し、因て此所を伏拜と言よし、彼釣橋を越へ段々難所あり、雪を踏分て五里許行

又壁を立たる如き所を二里登りて、其上に立山權現の社有、略○中

藤橋の花や命の延ちゞみ

瓢馬

隈本橋

〔易林本節用集 乾坤〕隈本橋

〔和漢三才圖會 越中六十八〕當國神社佛閣名所 略○中

相本橋 在浦山舟見之中間

此川乃立山諸地獄所涌出熱水、與雪解流、其水速也如瀧、至末則分爲四十八瀨、名黒部川、名有橋、名相本橋、名長

二十五、六丈、幅二丈許、以大木組出棧橋也、木曾棧亦不如之、

〔加越能山川記〕越中 黒部川

黒部川は 略○中 荒瀨にて渡舟なし、古々黒部は四十八ヶ瀨といふ大河也、すこしにても出水の時

は、往來人日泊して難義におよぶ故、万治年中三日市村を泊之間、浦山村、舟見村二箇所に新宿を

立て、愛本にはね橋を懸る、長三十三間あり、此橋は日本無雙の大棧也、

〔遊囊贖記 二十四〕黒部川ハ濱路ヨリ四十八瀨ヲ涉ルヲ古今ノ正路トス、サレバ國守ハ是ヲ通行